



Office of Promoting Gender Equality in Tokyo Gakugei Univ.

Vol.18
July.20

通信

第11回男女共同参画フォーラムが開催されました



(左から大矢氏、高口氏、宿谷氏、中澤氏)

2011年6月22日 15:00~17:30 N411教室

去る6月22日、毎年恒例となったOPGE助成による研究報告会が開催されました。今回は研究報告に先立って、文部科学省生涯学習政策局より男女共同参画学習課長の高口努氏をお招きし、「国における男女共同参画の施策と東京学芸大学への期待」と題してご講演いただきました。国立大学における男女共同参画の現状の分析に続いて、第三次男女共同参画基本計画を受け、女性教員や女性管理職の比率を増やしたり、理工系の女子を育成するための施策が示され、そのために教育大学として東京学芸大学が果たすべき役割の重要性について強調されました。

研究報告の部では、「ジェンダー平等の視点に立った小学1年生。読むことの単元開発—ジェンダーバイアスのない教育へ—」(附属竹早小学校 浅見優子 共同研究者：総合教育科学系 中澤智恵)、「法教育におけるドメスティック・バイオレンスのプログラム構築」(人文社会科学系 宿谷晃弘 共同研究者：東北公益文科大学 竹原幸太 東京大学大学院 山辺恵理子)、「男子校と女子校の家庭科カリキュラムの相違」(本学大学院修士課程2年 大矢英世 共同研究者：総合教育科学系 大竹美登利)の三つの発表がありました。

浅見氏の研究(発表者は中澤氏)は、国語教育の場で、ジェンダーバイアスのかかった原典を扱うことが提起する様々な問題についての我々の認識をただすものであり、また大矢氏の発表では、1994年以来高校の必修科目となった家庭科が置かれている現状についての詳細な現地調査とともに、家庭科を生活技術習得の場という限定的役割に閉じ込めることなく、真の男女共同参画社会実現を目指す生活科学としてその存在意義を問い続ける、男子校で家庭科を講じる現職教員としての実感のこもったお話を聞くことができました。

宿谷氏の研究は、DVというゆがんだジェンダー観によって引き起こされることの多い暴力についての法という立場での対処の可能性を、「法」という枠組みの限界についての批判的視点を失うことなく、緻密な理論検証により探るものでした。

どの研究発表も大変刺激的で、活発な質疑応答がなされ、休憩なしで三時間近くに亘ったフォーラムが短く感じられたことでした。

(芸術・スポーツ科学系 尾関 幸)

第1回女性の会報告



第1回女性の会が2011年6月9日に開かれました。この会は男女共同参画推進本部での新しい試みとして、村松泰子学長、大竹美登利副学長（本部長）を囲むランチ会という形で、少しでも日常的に女性教員の要望をくみ上げることのできる場所、あるいは女性教員同士での情報交換や職場の問題点を共有できるような場所をもちたいということから作られました。

当日は15名の女性教員が新しく出来た、むさしのホール1階教職員用ラウンジへ、各自さまざまな昼食を持参して集合しました。それぞれの自己紹介から始まり、村松学長が学芸大にいらしてからの学芸大での女性支援や女性教員の集いなどについてお話された後は、育児中の研究支援のことや、未就学児がいる場合の苦勞など、次から次へと話題はつきませんでした。あっという間に1時間が過ぎてしまい、もっと話したかったという雰囲気の中で次回はいつにしようかという話しになりました。当初は年3回程ということで計画していたのですが、基本的に毎月8日にこの会をもとうということになり、この会の名前を8日開催の会ということで、「∞（無限）の会」と名付けました。


（自然科学系 竹内伸子）

この会は基本的に毎月8日の12時から12時50分までむさしのホール1階教職員用ラウンジに於いて開催されますので、女性教員の方々、ご自由にご参加ください。お問い合わせ等は、男女共同参画本部までお願いします。

平成23年度 OPGE 助成金事業審査結果

審査の結果、以下の3件が採択されました。

申請代表者	所 属	活 動 題 目	交付金額 (円)
及川英二郎	人文社会科学系	小金井祭展示企画：水俣に見る複合的差別の構造—公娼制・植民地主義・公害—	315,000
宿谷見弘	人文社会科学系	法教育におけるドメスティック・バイオレンスのプログラム構築	284,200
鈴木秀人	芸術・スポーツ科学系	国際レベルの女子ラグビー選手育成プログラムに関する基礎的研究～男子大学生選手との合同練習を核にした育成における有効性と問題の検討～	294,000
合計			893,200

 本学溝口紀子准教授が猿橋賞を受賞

本学の自然科学系 溝口紀子准教授が、自然科学の分野で顕著な研究業績をあげた女性科学者に贈られる「猿橋賞」の本年度受賞者に選ばれました。受賞題目は「爆発現象の漸近解析」で、31人目の受賞となります。授賞式は5月28日東京霞ヶ関の東海大学交友会館に於いておこなわれ、「女性科学者に明るい未来をの会」より授与されました。

猿橋賞は、猿橋勝子博士が気象研究所地球化学研究部長を退官された1980年10月に創設されました。猿橋勝子博士は、まだ女性が理系の研究者として生きていくには苦難の時代に、地球科学者として世界的な業績をあげられた方です。氏は、研究だけではなく、後進の女性科学者たちの地位向上や研究支援のために力を尽くされました。その大きな功績の一つに、「女性科学者に明るい未来をの会」の設立と、同会における「猿橋賞」授与があります。同会の設立主旨は次のように記されています。「婦人の権利は大幅に広げられた。しかしまだに職業上の男女平等の道は遠い。とくに自然科学の研究分野では、男子の力が圧倒的に強い。また家庭をもった女性自然科学者に対する研究上の障害も大きい。女性の科学者数は総数においても比率においても、きわめて低いとはいえ、幾多優秀な科学者を出した。また、女性の科学的知識のレベルも向上し、国民生活の大きな基礎となっている。私たちは女性科学者の持つ、きわめて高い潜在能力を信じ、それに大きな期待を寄せている。また、私たちは我が国の自然科学の今後の発展が、女性科学者の活動に依存することがきわめて大きいと考えている。そして現在、女性科学者がおかれている状況の暗さの中に、一条の光を投じ、いくらかでも彼女らを励まし、自然科学発展に貢献できるように支援することができればと願っている。」近年、いろいろな啓蒙活動、公的援助活動など徐々に女性支援体制が確立されてきましたが、自然科学の研究分野での女性研究者育成支援は重要な課題です。男女共同参画を推進している本学の教員が、こうした賞を受賞されたことを、心より喜びたいと思います。(参考：米沢富美子著「猿橋勝子という生き方」岩波書店)

(自然科学系 竹内伸子)

東日本大震災で考えたこと 人文社会科学系 苫米地 伸

3月11日に発生した東日本大震災は、直接的かつ甚大な被害を被った岩手県、宮城県から遠く離れた東京に暮らす私たちの生活さえも変えようとしている。例えば、エネルギー関連の、とりわけ電力の問題がそうだろう。震災直後に起きたガソリンの買い占め、引き続いて行われた計画停電、公共施設や商店街などでの節電対策、さらに現在では今夏の電力供給が危ぶまれている。それに追い打ちをかけるように原子力発電所での事故の話題で、ワイドショーは持ちきりである。

しかしこの短期間の影響よりも私が気になっているのは、震災によって生活基盤を失った家族、とりわけ震災孤児たちの今後のことである。現段階で死者、行方不明者合わせて2万4千人近い人々が被害にあい、震災から3か月が経った今でも避難者数は8万人に上る。両親と死別、さらに親戚さえも失った子どもたちが多数いるはずだし、親が生き残り生まれ育った地域に戻れたとしても今後の生活に苦しむ家族も多いのではないかと。

そういった場合に彼女／彼らが利用できるものとして、里親制度と特別養子制度という制度がある。特別養子制度は、それまでの養子制度とは異なり、実の血族との関係が戸籍上終了する。つまり戸籍上実子として養育することが可能だ。しかしこの制度には「親子関係とは生物学的な関係でなければならない」という考え方の延長線上にあるという批判もある。

他方の里親制度とは、戸籍を変更することなく実質的な保護者として養育するものだ。平成21年度の統計によれば、里親として認定・登録されている数は全国でも7200足らずである（その内すでに委託されている里親数は2800程度）。最近まで年々縮小傾向にあったこの制度をフルに活用したとしても、今回の被害者たちには足りないかもしれない、不十分な支援にしかならないのかもしれない。

それでも彼女／彼らの存在は、上記の制度はもとより「親子関係は社会的なものである」という意識を、私たちに考えさせるきっかけとなるのではないかと。つまり「親子は血族でなければならない」という考え方を、再考する機会を与えてくれるのではないかと。こちらの方が、より深いところで私たちの生活を変えることになるのかもしれない。

人事課職員係のお問い合わせ先

- 人事課職員係 清水
- 内線：7123
- E-mail：syokuin@u-gakugei.ac.jp
- FAX：042-329-7127

東京学芸大学男女共同参画推進本部
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
TEL：042-329-7108 FAX：042-329-7114
E-mail：danjo@u-gakugei.ac.jp
URL：http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/
詳しい情報等はホームページをご覧ください。

